

原初的商業形態としての水産物行商にみる移動就業 行動の時空間的展開に関する研究

研究代表者	中村 周作
URL	http://hdl.handle.net/10458/4563

原初的商業形態としての水産物行商にみる移動就業行動
の時空間的展開に関する研究

課題番号 15520503

平成15, 16年度 科学研究費補助金基盤研究 (C) (2)

研究成果報告書

2005年5月

研究代表者

中 村 周 作

(宮崎大学 教育文化学部)

科学研究費補助金「基盤研究（C）（2）」について

1. 研究課題 原初的商業形態としての水産物行商にみる移動就業行動の時空間的展開に関する研究

2. 課題番号 15520503

3. 研究経費 平成 15 年度 800 千円

平成 16 年度 800 千円

4. 研究発表

(1) 学会誌等

- ①中村周作「中部地方における水産物行商活動の変容」宮崎大学教育文化学部紀要社会科学 10, 2004, 1-21 頁。
- ② 同 上 「関東地方における水産物行商活動の変容」宮崎大学教育文化学部紀要社会科学 10, 2004, 23-40 頁。
- ③ 同 上 「四国地方における水産物行商活動の変容」宮崎大学教育文化学部紀要社会科学 11, 2004, 1-12 頁。
- ④ 同 上 「北海道・東北地方における水産物行商活動の変容」宮崎大学教育文化学部紀要社会科学 12, 2005, 1-20 頁。
- ⑤ 同 上 「近畿地方における水産物行商活動の変容」宮崎大学教育文化学部紀要社会科学 12, 2005, 21-38 頁。

(2) 口頭発表

- ①中村周作「中部地方における水産物行商活動の変容」人文地理学会大会, 2003 年 11 月。
- ② 同 上 「わが国における水産物行商活動の変容」人文地理学会大会, 2004 年 11 月。

目 次

はじめに	1
1. 北海道・東北地方における水産物行商活動の変容	3
2. 関東地方における水産物行商活動の変容	23
3. 中部地方における水産物行商活動の変容	41
4. 近畿地方における水産物行商活動の変容	62
5. 中国地方における水産物行商活動の変容	80
6. 四国地方における水産物行商活動の変容	95
7. 九州地方における水産物行商活動の変容	107
補章1. 沖縄県における水産物行商活動の変容	126
8. わが国における水産物行商活動の変容と主要地区における活動の展開	129

はじめに

本報告書は、平成 15～16 年度の科学研究費補助金（基盤研究(C)(2)，中村周作）による研究成果を取りまとめたものである。その構成については、目次に示したとおり、全国を 7 地区、および補章としての沖縄県に分けて、それぞれの地区における行商人の分布と行商活動の展開について詳述した上で、第 8 章においてわが国全体に関する総括を行った。この中で、第 5，7 章の中国，九州地方に関する小論は、今回の科研費補助金が決定する前に調査，執筆したものであるが、構成上不可欠のため、あえて本報告書中に採録した。

筆者は、かつて（1980 年代前半）に、わが国全域を対象として水産物行商人と、当時勃興しつつあった自動車を利用する行商（以下、自動車営業者と称する）人の分布とそれらの活動の地域的展開，行商行動にみられる特徴についての小論を著した（中村，1985）。当時，全国で 22,000 名を数え，全国津々浦々，町中，駅頭などでその活動を見かけることの多かった水産物行商人は，しかし，極端な高齢化に伴う営業者の減少が懸念される状況にあった。その後，20 年の時を経た今日では，かつて大半の行商人が活動拠点としていた各地の漁村においてすら，行商人の活躍を目にすることがほとんどなくなった。そのような状況下で，今，全国にわたる行商人の分布とその活動を追跡調査し，記録に止めておかねば，近い将来，ほぼ確実にわが国から行商人が消え去り，かつてみられたその活躍ぶりはおろか，存在すら忘れられてしまう，そんな強い危機意識が筆者の今回のささやかな研究活動の心の支えになってきた。ただ，対象地域が全国にわたる本研究は，その遂行に当たって大きな調査費が必要であり，その点で，今回の科学研究費補助金の支給によって，この 2 年間で可能な限りの調査を成し遂げることができたことを深く感謝したい。

今回の調査は，食品衛生行政機関を対象とする資料，聞き取りを中心に，その他，行商に関係する機関，人々に対する聞き取りなどを実施した。このうち，筆者が直接訪問して資料，聞き取り調査を行った関連機関は，都道府県庁，政令指定都市，中核市，漁協，卸売市場など，合計 79 箇所にものぼる。また，郵送，電話，メール，ファックスなどを使って調査させていただいたのが，各地の保健所など 108 箇所であった。水産物行商に対する

行政側の対応は地域によって様々であるが、今回の調査でお世話になった関係諸氏には、可能な限り誠心誠意に対応、ご協力をいただいた。そのことをここに記して感謝したい。

本報告書では、漁村で得た魚を元気に売り歩いて稼ぐだけでなく、農村・都市－漁村が分化して以来、その間を繋ぐ紐帯として機能してきた漁村女性の活躍ぶりを、つぶさに描き出すところまでは至らなかった。しかし、20年以上も昔、筆者が未熟な学生時代より、話を聞き、目で見、足でともに歩んだ、いわゆる‘行商のおばちゃんたち’の顔、姿は決して忘れるものではない。この報告書をお読みいただく方々が、そのような人々の活躍をも思い起こしていただけるならば、筆者にとって望外の喜びである。

宮崎大学教育文化学部教授

中村 周作

文 献

中村周作（1985）：水産物行商人の空間行動様式－山陰地方の事例を中心として－，人文地理 37-4，22-43 頁。